

# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター

## 音楽 第46号

- 中学校，高等学校，特別支援学校対象 -  
平成26年4月発行

### 主体的に鑑賞する能力を高める指導の工夫

学習指導要領では，鑑賞領域において，音楽科の学習の特質に即して，言葉の活用を図る観点から，「言葉で説明する」，「根拠をもって批評する」などして音楽のよさや美しさを味わうこととし，音楽の構造などを根拠として述べつつ，感じ取ったことや考えたことなどを言葉を用いて表す主体的な活動を重視している。

そこで，本稿では，生徒がイメージや思いを伝え合う活動に焦点を当て，鑑賞指導の進め方や指導の工夫について述べる。

#### 1 音楽科における鑑賞の学習

音楽の鑑賞は，音楽を聴いてそれを享受するという意味から受動的な行為と捉えられることがある。しかし，音楽科における鑑賞の学習は，音楽によって喚起されたイメージや感情などを，自分なりに言葉で言い表したり書き表したりする主体的・能動的な活動によって成立する。

鑑賞の授業においては，鑑賞した楽曲について根拠をもって批評するなどの活動を積極的に取り入れ，多様な音楽に対する理解を深めるとともに，主体的に鑑賞する能力を高めることが重要である。

しかし，これまでの授業を振り返ってみ

たとき，次のような授業が展開されていなかったらどうか。

教師が楽曲について詳細に説明した後で楽曲を聴かせ，感想を書かせる授業

楽曲を聴かせた後，教師が，作曲者や音楽の構造，時代背景など，知識のみを教え込む授業

「感じたこと，想像したことをノートに何でも書きなさい。」と指示を出し，楽曲を聴かせ，書いたことを発表させる授業

楽曲を聴いて，イメージした情景を絵に描かせ，その内容を発表させる授業

鑑賞の学習の際，教師が意図もなく「何でも書きなさい。」と指示するだけで楽曲を聴かせると，生徒は，気付いたことや思ったことを感想として書き連ねるだけで終わってしまう。また，楽曲の特徴等について詳細に説明した後で聴かせると，生徒の感想は偏ったものになる。

教師は，生徒の自由な発想を大切にしながら，楽曲の特徴や音楽の要素を生徒に知覚させ，それらが生み出す曲想や美しさを聴き取らせる指導の手立てを考えなくてはならない。その手立ての一つとして，「聴き取らせる内容を明確にすること」が挙げられる。

教師は、教材とする音や音楽にはどのような特徴があり、どの要素に着目させたいかを明らかにした上で、その要素や要素同士の関連を生徒が知覚できるような授業を展開することが大切である。また、生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようなグループ活動を取り入れることを忘れてはならない。

## 2 鑑賞領域における指導のポイント

音楽を単に聴かせるだけで終わらせないためには、次のようなポイントを押さえた指導が大切である。

音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取らせること

感じ取ったことや理由などを言葉で表現させたり、根拠をもって批評させたりすること

音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解させること

様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解させること

我が国や諸外国の様々な音楽を鑑賞し、音楽を形づくっている要素や構造の働きから生み出される曲想を感じ取って聴き、その音楽によって喚起されるイメージや感情を意識することが大切である。特に、幅広く主体的に鑑賞させることによって、自分の中に新しいイメージや感情が生まれることを意識させたり、それを確認させたりすることが重要となる。

学習指導要領で重視されている「根拠をもって批評する」とは、漠然と感想を

述べたり単なる感想文を書いたりすることとは異なる活動であり、音楽のよさや美しさなどについて言葉で表現し、音楽に関する用語などを用いて、他者に伝えることが音楽科における批評である。また、それが他者に理解されるためには、客観的な理由を基にして、自分にとってどのような価値があるのかといった評価をすることが重要となる。

音楽は、その背景となる文化・歴史や他の芸術から直接間接に影響を受けており、それが音楽の特徴となって表れている。また、我が国や諸外国の多くの音楽は、文学、演劇、舞踊、美術などに関わりをもって成立している。このような音楽の背景を理解して鑑賞することが、音楽を形づくっている要素や構造、曲想を捉えさせるために有効になる。

「音楽の多様性を理解する」とは、単に多くの音楽があることを知識として得るだけではなく、人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによって様々な特徴をもつ音楽が存在していることを理解することである。その理解は、自らの音楽に対する価値意識を広げ、人類の音楽文化の豊かさに気付き、尊重することにつながっていく。

## 3 鑑賞活動における指導の工夫

鑑賞の活動では、音楽から感じ取った自分の思いやイメージを、音楽に関する用語などを用いて他者に言葉で説明したり、それを基に伝え合ったりする活動が重要である。

## (1) ワークシートの工夫

楽曲を鑑賞させる場合、ただ聴かせるのではなく、特定の要素に焦点を当て、音楽の構成要素・表現要素の働きを知覚させ、それらの働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想などを感じ取らせることが大切である。そのためにはワークシートを工夫し、生徒に聴く観点を与え、「どんな感じがしたか」、「どんな情景が思い浮かんだか」といった感受の内容と「音楽の諸要素」を関連付けさせる手立てが必要である(表1)。

表1 ワークシートの内容例(観点)

どんな感じの音楽でしたか。
どんな情景が思い浮かびましたか。

それは音楽のどんなところからですか。
A 音色(楽器の音色や全体の響き)
B リズム・速度・強弱
C 旋律(音のつながり方)
D テクスチャ(音や旋律の重なり方)

## (2) グループ活動の工夫

音によるコミュニケーションの充実を図るためには、「生徒が主体的に楽曲を追究する場面」において、グループ活動の充実を図ることが大切である。生徒一人一人が、自分の考えを明確にもち、その上で互いの考えを伝え合う活動を通して、自分と他者の考えの違いに気づき、新たな発見をしたり理解を深めたりしながら、音楽に対する意識を広げることができる。そのためには、グループ活動の中で、ワークシートをいかに活用して伝え合うかがポイ

ントになる。意見交換する中で、他者のよき考え・気づきは、付箋紙に書いて、自分のワークシートに貼ることも一つの手立てである。その場合、上述(1)の観点で示した音楽の要素ごとに、付箋紙の色を変えることによって、聴き取った観点がより明確になる。

## 4 鑑賞指導の構想例

表2は、題材「情景を想像しながら、作曲者の思いを感じ取ろう」の構想例である。[教材：スメタナ作曲、連作交響詩「我が祖国」から プルタバ]

表2 題材の指導計画例(全2時間)

第1時	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 曲全体を鑑賞し全体像を捉え、印象に残った部分を選び、感想をまとめる。</li><li>・ 音楽を形づくっている要素の特徴を理解し情景との関わりを味わって聴く。</li><li>・ グループで意見交換し、楽曲への理解を深め、意見を発表する。</li><li>・ 交響詩について理解する。</li></ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 楽曲について理解する(作曲家、楽曲ができた時代背景、チェコの自然や歴史)。</li><li>・ 音楽を形づくっている要素と曲想、歴史的背景の関わりを理解して、根拠をもって批評文を書く。</li></ul>

この曲は、管弦楽による標題音楽である。標題が付いていることで具体的に情景を想像することができるが、本題材では、音楽を形づくっている要素や構造などから場面を想像させる。そして、なぜそのような場面を想像したのかを、音楽に関する用語などを用いて他者に伝え、共感したり、自分と違った想像を受け入れたりする場面を設定し、音楽を深く味わう学習につなげていく。表3は、指導計画第1時の授業展開例である。

表3 授業展開例(1/2)(ゴシックは指導の工夫に関連する部分)

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点
導入	5分	1 既習曲「ふるさと」を合唱する。 ・正しい姿勢,無理のない発声で,伸び伸びと歌う。 ・ブレスの位置や音符の長さを意識し,曲想を考えながら歌う。	一斉	全員で「ふるさと」を合唱させる。 ・演奏前の緊張をほぐすような声掛けをしながら,姿勢に気を付けさせ伸び伸びと歌える雰囲気をつくる。 ・曲に込められた思いや曲想を確認し,表現を工夫させる。
	5分	2 本時の目標について知り,本時の流れについて説明を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">楽曲の曲想と音楽を形づくっている要素との関連に気付き,自分の考えや感じたことを伝えよう。</div>	一斉	本時の目標を確認し,本時の流れを説明する。 ・前時までの学習の流れを振り返らせながら,本時の目標を生徒たちに考えさせ,引き出す。 ・これまでの学習で確認した音楽に関する用語について確認する。 (音色,リズム・速度・強弱,旋律,テクスチュア) 曲全体を鑑賞させ,ワークシートに記入させる。
展開	15分	3 曲全体を鑑賞し,自分の考えや感じたことをワークシートに記入する。 ・どんな感じの音楽か(ワークシート) ・どんな情景か(ワークシート) ・音楽の諸要素との関連はどうか(ワークシート)	個人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ワークシートの工夫 ただ曲を聴かせるのではなく,聴き取らせるポイント,内容を十分生徒に理解させた上で鑑賞させ,ワークシートに記入させる。</div>
	15分	4 グループ(4人)で意見交換する。 ・一人ずつ交替で,ワークシートに記入した自分の考えを述べる。 ・自分が気付かなかった他者の意見で,共感したものを付箋紙に記入し,自分のワークシートに貼る。 ・グループで出た意見をまとめ,代表者が発表する。 ・グループで出なかった意見で,共感したものを付箋紙に記入し,自分のワークシートに貼る。	グループ 一斉 個人	グループ(4人)で意見交換させ,新たな気付きを付箋紙に書かせ,ワークシートに貼らせる。また,グループごとに意見をまとめさせ,全体の場で発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループ活動の工夫 自由な雰囲気の中で,意見交換をさせ,お互いの曲に対する思いやイメージを共感したり,共有したりできるようにする。また,4種類の色の付箋紙を準備し,音楽の諸要素(音色,リズム・速度・強弱,旋律,テクスチュア)によって色を指定して記入させる。</div>
終	5分	5 交響詩について理解する。	一斉	交響詩について説明する。 ・交響詩は,管弦楽によって演奏される標題音楽であることを理解させる。 ・鑑賞した「ブルタバ」には,7つの標題が付いており,次時にそれぞれの標題の部分の聴き比べ,本時の学習を深めていくことを伝える。
末	5分	6 本時のまとめをする。 ・評価カードに自己評価と感想を書く。 ・次時の学習の流れを知る。	一斉	本時のまとめをさせ,数人に感想を発表させる。 ・評価カードに自己評価をさせ,本時で新たに気付いたことを中心に感想を書かせる。 ・次時は楽曲について(作曲者,楽曲ができた時代背景,チェコの自然や歴史)学習することを知らせる。

グループで,他者との伝え合う活動を通して,自分の考えを深めていく。その過程で,音楽のよさや感じ取ったことを,音楽に関する用語などを用いて言葉で説明したり,それを基に話し合ったりする学習の中で,音楽的な根拠を示して,言葉によりまとめる能力を育み,生徒に音楽を鑑賞する楽しみを十分味わわせる授業を展開していただきたい。

参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編』平成20年,教育芸術社  
文部科学省『高等学校学習指導要領芸術編(音楽)』平成20年,教育芸術社  
藤沢章彦編著『新学習指導要領ガイドブック』平成20年,教育芸術社  
国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校音楽】』平成23年,教育出版株式会社

(教職研修課)